

## 名前【】

油井亀美也さん(46)や大西卓哉さん(40)ら「新世代」の宇宙飛行士が活躍している。油井さんらは300倍を超える競争率の狭き門を通り、選ばれた。選抜試験は学力や健康面だけでなく、閉鎖空間での共同生活への対応力など、さまざまな角度から資質が評価される。宇宙航空研究開発機構(JAXA)は「今後の採用は未定」としているが、宇宙への夢をかなえる秘訣はあるか。

油井さん、大西さんと金井宣茂さん(39)の3人が国際宇宙ステーションに滞在する飛行士に選ばれたのは2009年。前年に5回目となる飛行士募集があり、963人が応募した。

採用担当だったJAXA広報部の柳川孝一氏は「宇宙の特殊な環境で、海外のメンバーと協力してチームの成果を上げられる人材を求めた」と話す。リーダーシップと、リーダーを的確にサポートする役割を使いこなせることが必要という。

条件は、自然科学系の大卒以上、実務経験3年以上など。職場の推薦状に加え、家族の推薦状も求めた。募集から採用までは約1年、採用後も訓練期間が長い。

## 宇宙飛行士の選抜 (敬称略)

選ばれた年	受験者数	合格者
1985年	533人	毛利衛、向井千秋、土井隆雄
92年	372人	若田光一
96年	572人	野口聡一
99年	864人	古川聡、星出彰彦、山崎直子
2009年	963人	油井亀美也、大西卓哉、金井宣茂

## 場を和ませる

大西さんは、自己アピールで一人一役のミュージカルを即興で演じた。「順番が最後で、半分やけくそだった」と打ち明けるが、他の受験者の心をつかみ場を盛り上げた。柳川氏は「場を和ませる力、人の心をつかむ力も重要な資質」と指摘する。

10人は米国に行き、米航空宇宙局(NASA)の飛行士と英語でやりとりする面接を受け、ロボットアームを操作する試験をこなした。評価項目ごとに点数化され、合計点の上位3人が採用された。

飛行士の募集は、いつあるか分からない。大西さんは、いったん全日空のパイロットの道を選び、「脂が乗って充実した時期」に新聞で募集を知り、「今しかない」と決意した。柳川氏は「新しいことに科学的視点から好奇心、関心を持つ、科学する心」を磨いてほしい」と話す。

## 宇宙飛行士 競争率300倍

「飛行士は支える家族も大変。家族の理解が得られるかは重要だ」と柳川氏。応募した人はTOEICの英語試験を受験、7割以上の点数を取る必要がある。それを含めた書類審査を230人が通過。医学検査や数学や物理、一般教養などの1次試験で50人に絞られた。

2次試験は、計6時間の面接。JAXAの幹部や心理学者、医師らが、心の健康が保たれているか、過去の経験から宇宙環境で対応する力があるかを見た。柳川氏は「特に失敗とう向き合い、対応してきたかを重視した」と言う。残ったのは10人。

最終選考は、大型バス2台分の広さの施設で1週間の共同生活。外には出られない。折り鶴をひたすら折る作業、環境税をテーマにしたディベート、ロボット作り、自己アピール。さまざまな業務を与えてストレスをかけ、審査員は別室のモニターで精神力や協調性、統率力などを観察した。

## 学力、健康など評価／最終選考は閉鎖空間で共同生活

選抜試験に合格後、訓練を受ける(左から)油井亀美也さん、大西卓哉さん、金井宣茂さん(2011年5月)(JAXA、NASA提供)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

- ① 宇宙飛行士に選ばれるには、どのような資質が要求されるのですか？記事からわかるところに、マーカーで印をつけましょう。
- ② この記事を読んだ感想を書きましょう。